



現西成区長 杉原一男



西成区役所庁舎



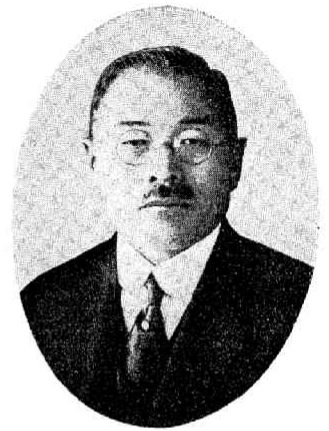
8代 井口 銀三治



7代 石川 為藏



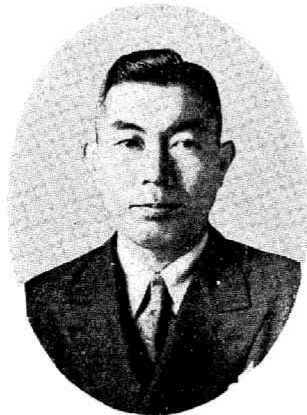
2代 広岡 彌



初代 野々田 為吉



10代 萩原 敏男



9代 明石 杲



4代 梅原 和 三 郎



3代 松村 義 太 郎



12代 躰 谷 泰 三



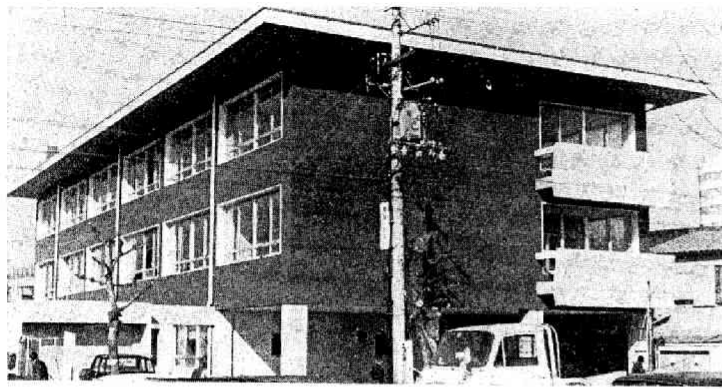
11代 小 島 誠



6代 寺 島 圭 三



5代 吉 田 莊 太 郎



西成税務署



西成警察署

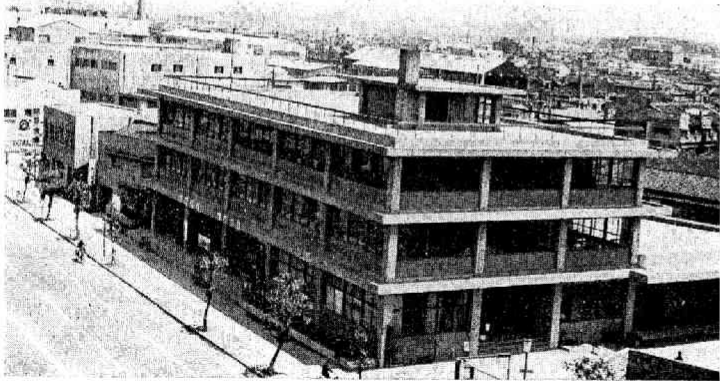


西成府税事務所



西成消防署

海道出張所



西成郵便局

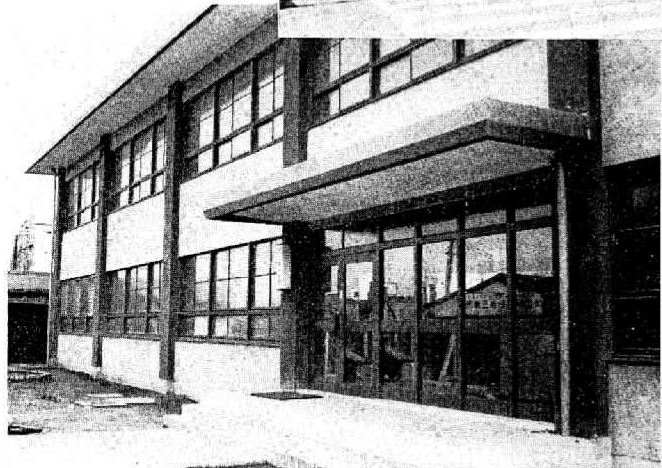


津守出張所

西成市民館



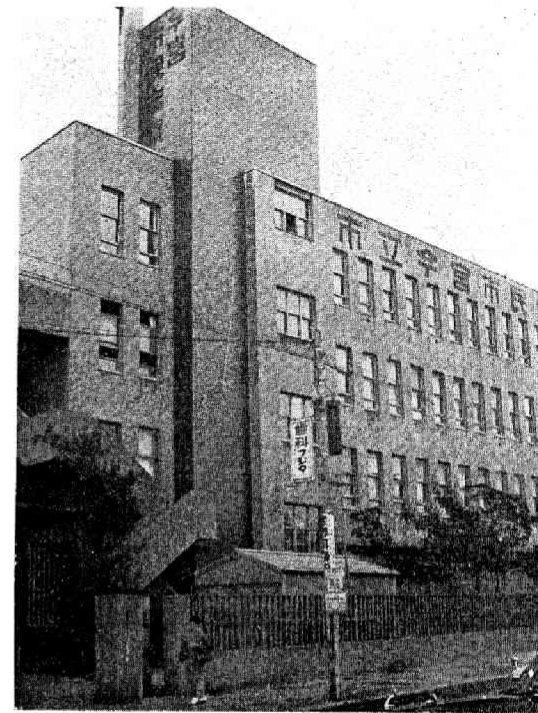
西成保健所



長橋市民館



愛隣寮



今宮市民病院

老人福祉センター



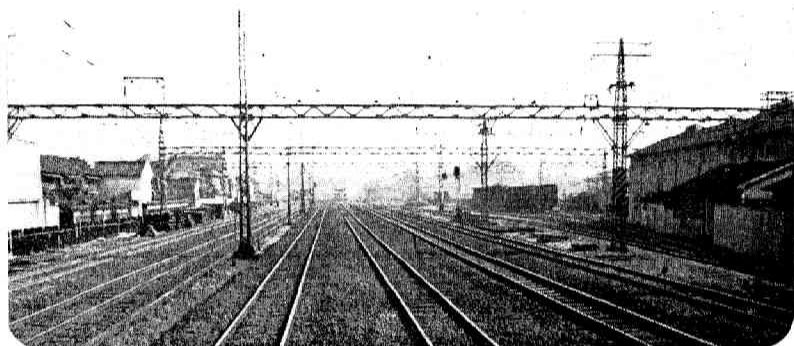
愛隣会館



南海玉出駅



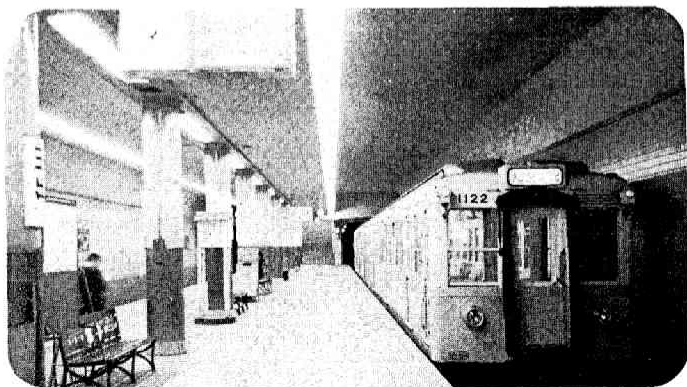
区の中心幹線 国道26号線



南海天下茶屋駅付近 3複線



木津川左岸
千本松渡し付近

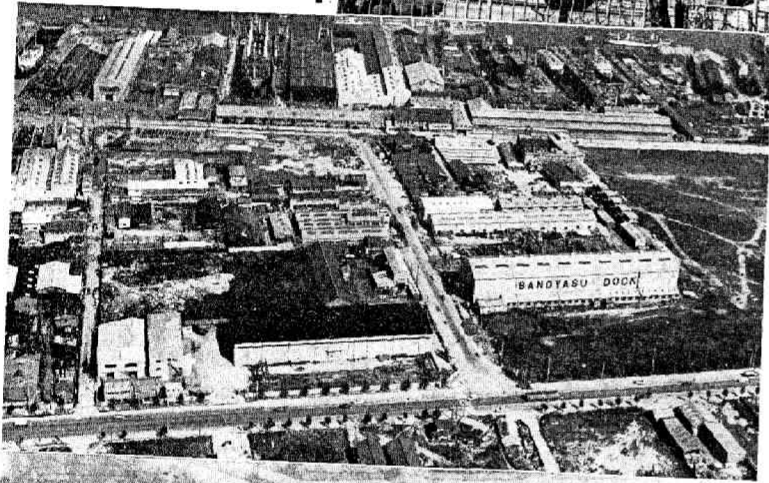


地下鉄3号線玉出駅

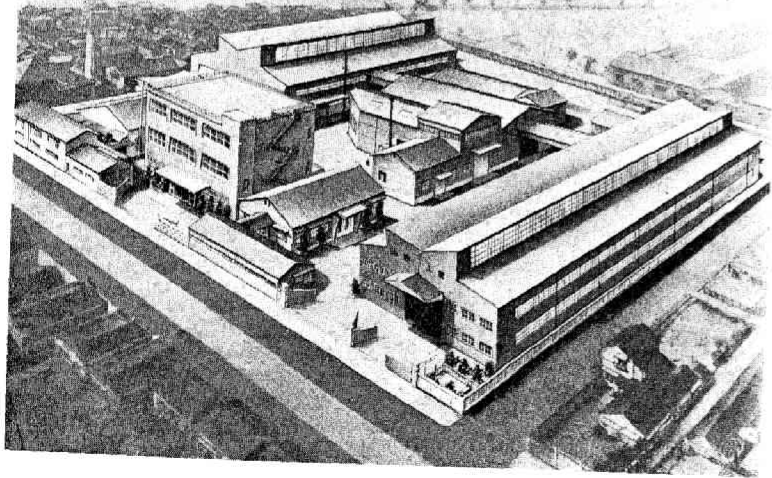


木津川右岸千本松渡し

産業公館



佐野安船渠(株)



油野工業株式会社

区内商店街



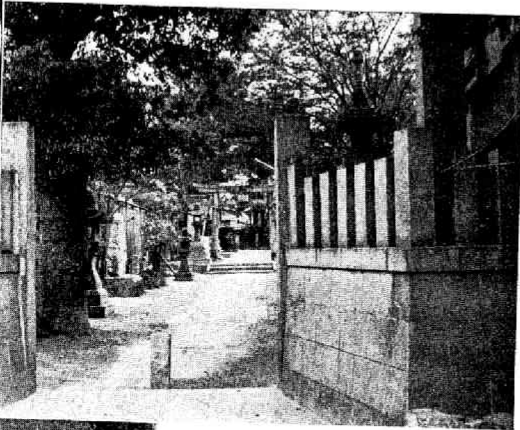
南津守の農地風景



食肉卸売市場



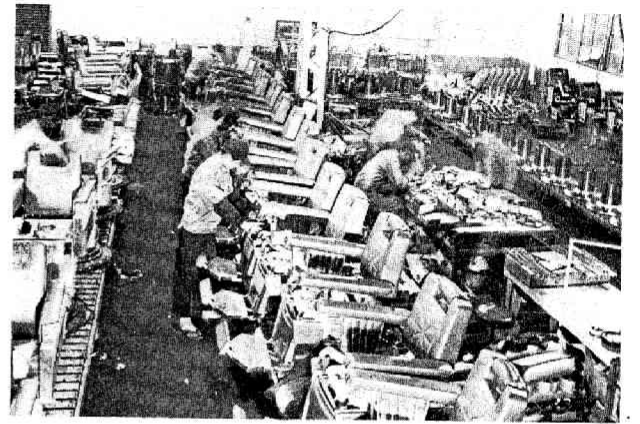
明治天皇駐蹕遺址
天下茶屋公園



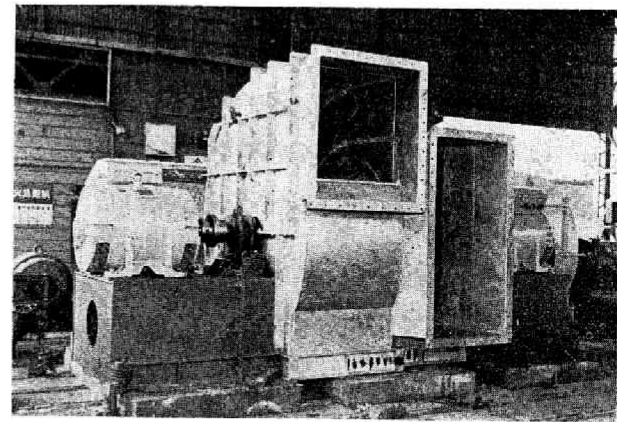
天満宮紹鷗の森



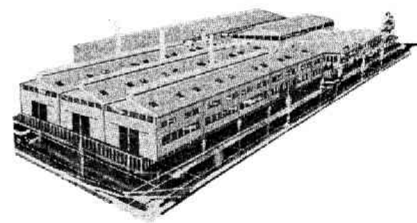
飛田墓地無縁塔



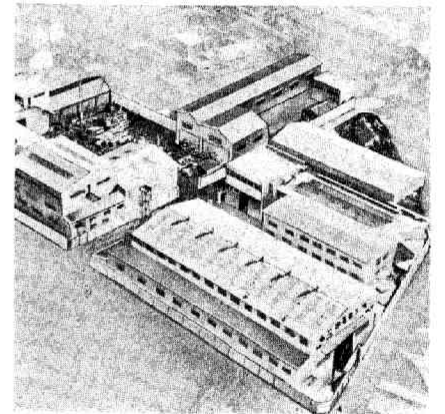
(株) 宝 鑄工所



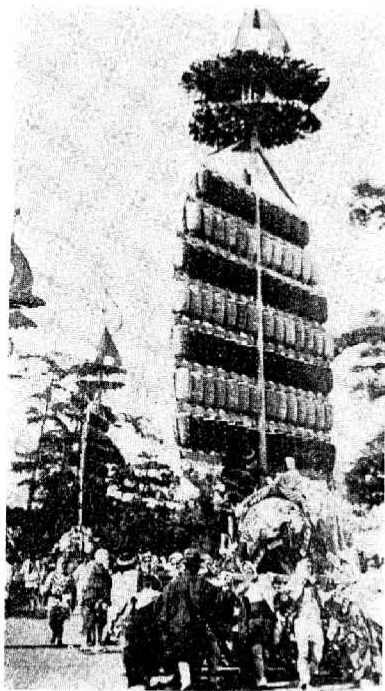
(株) 大阪送風機製作所



古 林 工 業 (株)



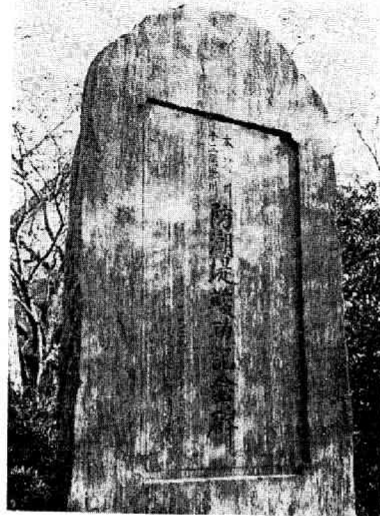
(株) 越原鉄工所



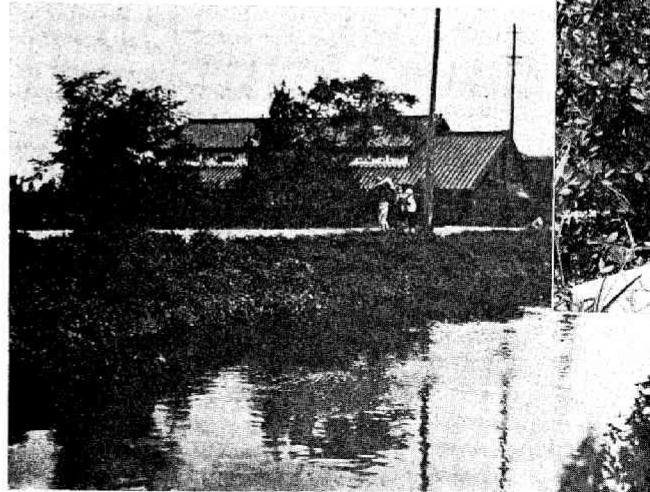
勝間だいがく



敷津松之宮の夏祭



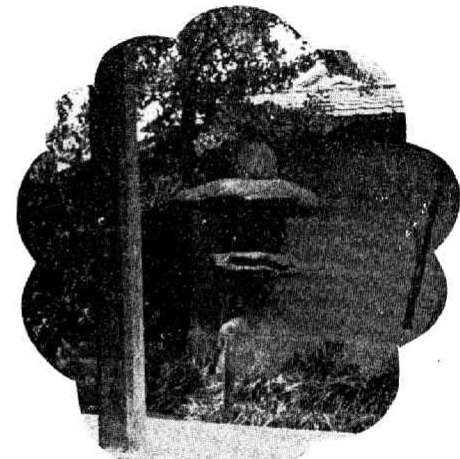
末津川、十三間堀川防潮堤
竣工記念碑



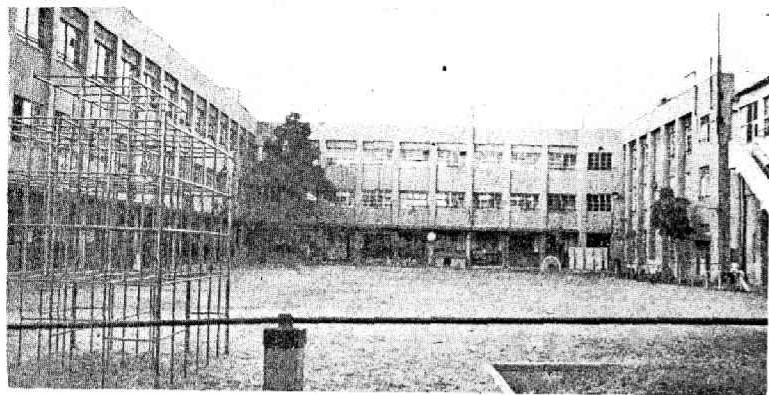
編入の頃の十三間堀川



津守新田会所跡
(津守小学校内)



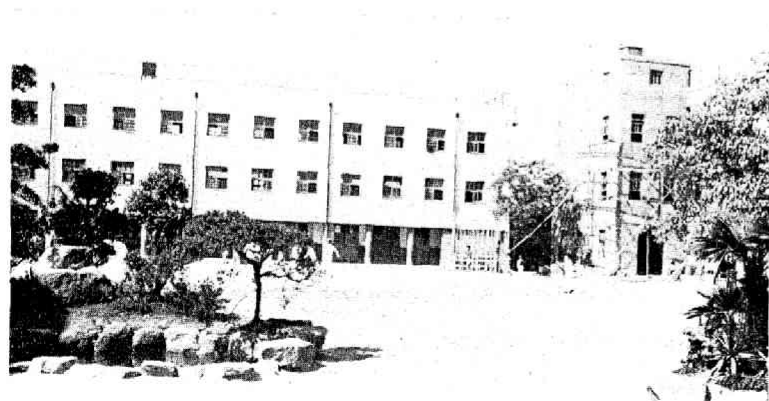
もと白山邸内灯笼 (現在津守神社内)



弘治小学校



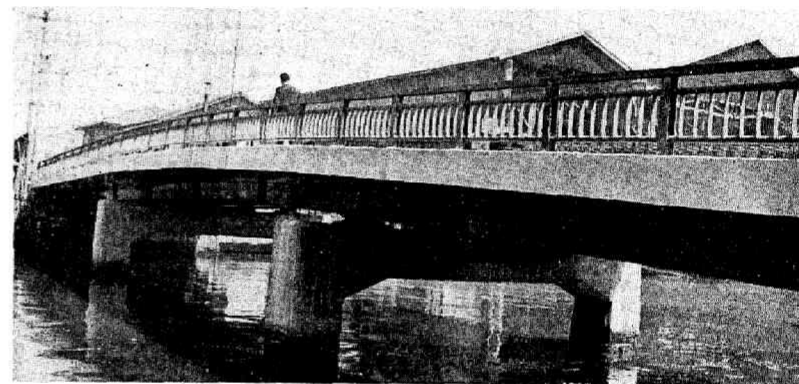
長橋小学校



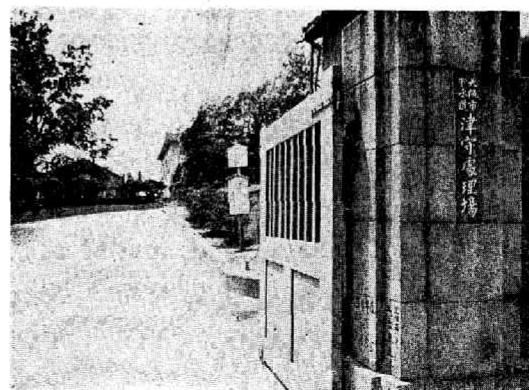
萩之茶屋小学校



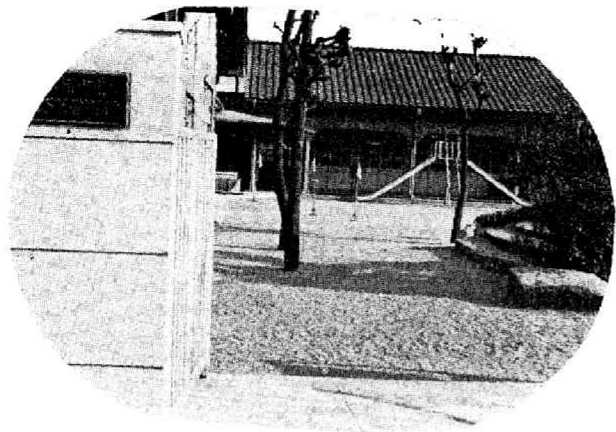
旧長橋橋柱



木津川運河入船橋

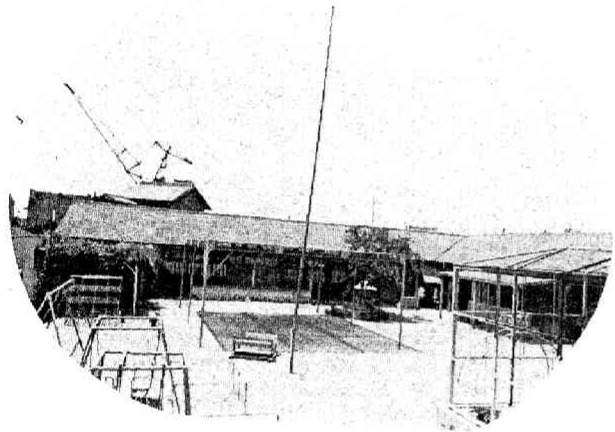
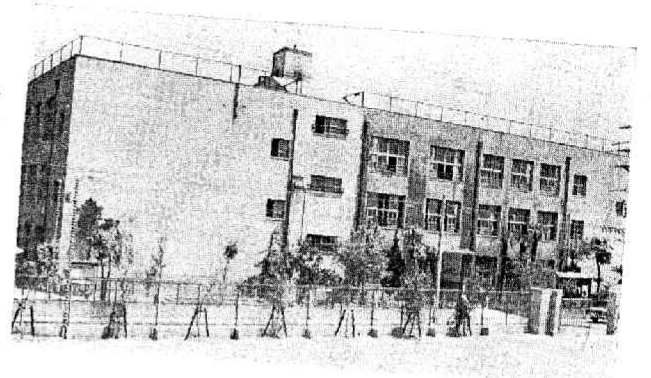


津守下水処理場



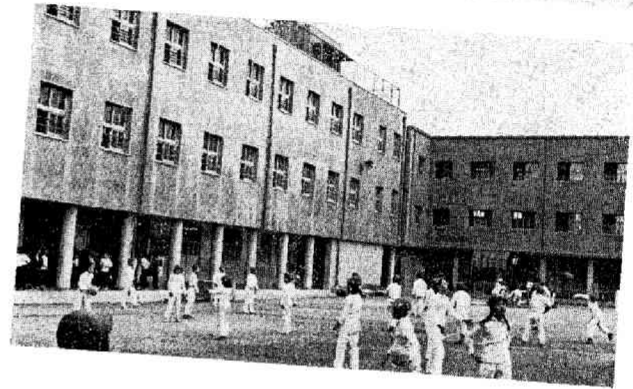
天下茶屋幼稚園

今宮小学校

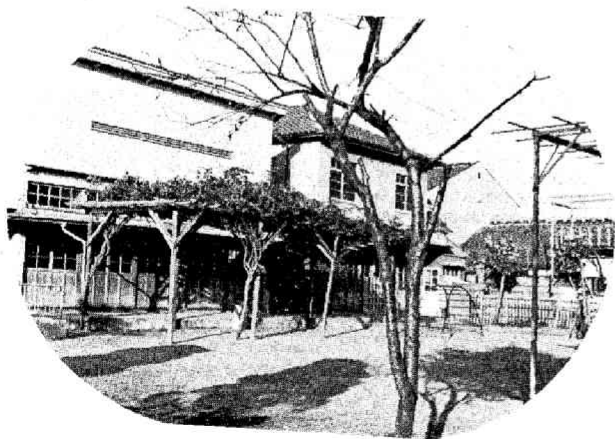


津守幼稚園

松之宮小学校

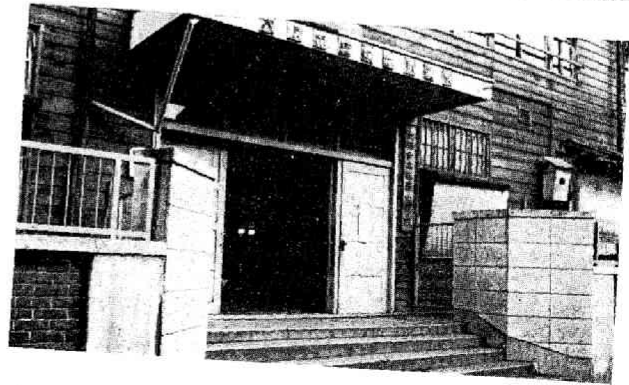


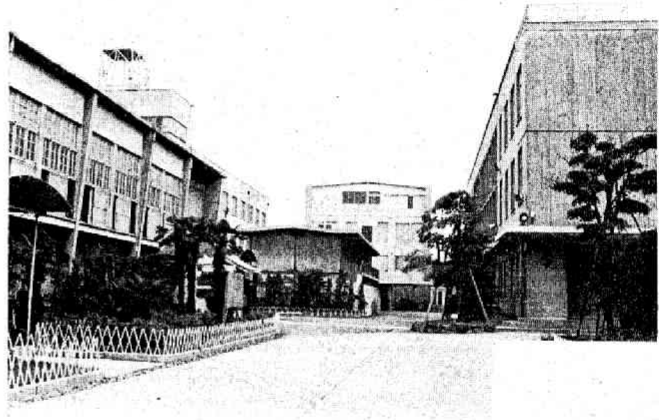
橘小学校



区内保育所

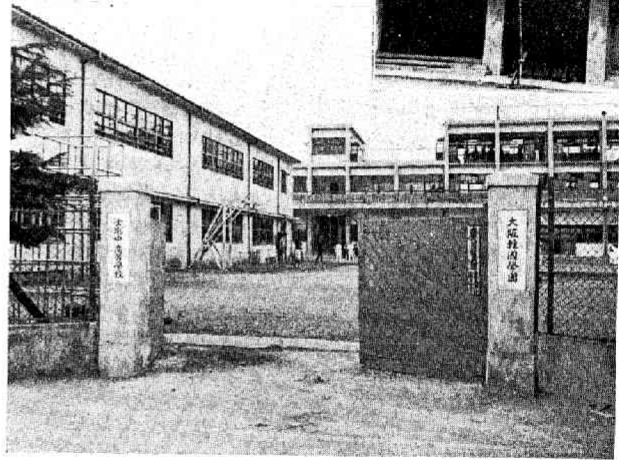
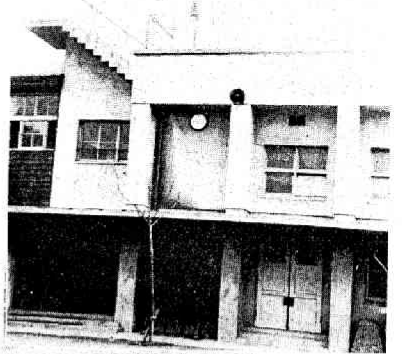
梅南小学校





今宮工業高校

もとの徳風勤労学校



金剛学園



金剛学園

序

わが郷土西成区は、大正一四年大阪市第二次市域拡張に伴い今宮町、玉出町、津守村および粉浜村の四カ町村をもって誕生いたしました。上町台地の西、木津川に至る間に位する西成の地は、遠く平安時代に陸地化したものと聞きおよんでおります。

織豊時代には大阪、堺間の街道筋として、また時には戦場として史上に散見される当地も明治二二一年大阪が市制を施行する当時には郊外の静かな一農村でありました。

明治三〇年、第一次大阪市域拡張時には、当地北端まで人家がせまる程となりましたが、天下茶屋方面は未だ緑多い南郊の高級住宅地として昔ながらの姿をとどめておりました。

大正一四年、第二次市域拡張時に至るや、今宮町方面は急激に人口が増加し、町工場や人家が建並ぶ発展ぶりを示し、古くから集落を形成していた玉出町、重工業地帯として発展のきざしの見えはじめた津守村、南隣の粉浜村とともに市域に編入されたのであります。

爾来四〇年、往昔のねぎ畑や綿畑、また藍畑など全く昔語りとなり、緑の木々も数次の風水害でその美しさをなくし、殊に太平洋戦争の災禍は、発展途上にあつた区内の大半を焼土と化したのであります。しかし、区民各位のこれにひるまぬ不屈の努力により復興事業の実施とともに交通機関や道路の整備がなされ、今や大大阪南部における商工業の中枢地として諸産業の発展著しくますます繁栄の

途上にあります。

この時にあたって区政四〇周年を記念し、先賢の足跡を振り返り、将来の発展を期すべく市域編入四〇周年記念事業委員会が結成され、その記念事業の一環として、「西成区史」の刊行が企画されここにその発刊をみましたことは誠に同慶にたえません。

いまだ体系だった区史を持たない当区にとりまして、各分野にわたり正確、克明に記述された郷土の歴史は今後の区勢発展の重要な指針として後世に永く残る誠に意義深いものと確信し、この企てに心からお礼申し上げますとともに本史編集にあたり執筆の労を煩わしました大阪市史編集委員川端直正先生および本書のため特に題字を賜りました中馬馨市長、麗筆をもって錦上花を御添え下さいました生田花朝画伯に対し厚く御礼申し上げます。なおまた本書のため貴重な資料写真等御提供下さいました関係官公署、区民各位並びに四〇周年記念事業委員会関係の皆様深く感謝申し上げます。

昭和四三年一〇月一日

西成区長 杉原一男

序

わが郷土西成区が誕生いたしましたして、ここに区政四〇周年をめでたく迎えましたことはまことに御同慶に堪えません。

顧みますに大正一四年四月一日旧西成郡内の今宮町、玉出町、津守村および粉浜村の四箇町村の全域をもって大阪市第二次市域拡張により編入以来、行政区域の一部変更はありましたが、住宅・商業あるいは工業地域としての立地条件に恵まれて、編入当時の人口の約二倍に当ります二万二千八百人の現在人口を有し市内屈指の活気溢れる大区として、産業都市大阪の枢要な一区域を形成するに至りました。

この輝やかしい西成区政四〇周年を迎えるに当り、区の歩みを回顧し、将来の隆昌と明るく住みよい町づくりを期するため、西成区市域編入四〇周年記念事業委員会を組織いたしましたところ、市区当局の多大の御援助と区民各位の熱意に満ちた御協力によりまして、記念式典をはじめ多くの意義ある記念行事を滞りなく終了し所期の目的を達成できましたことは終生忘れることのできない喜びでございます。この機会に厚くお礼を申し上げます。とくに今般記念事業の最大のものであります「西成区史」が大阪市史編集委員川端直正先生を煩わして、めでたくその上梓を見ましたことは喜びに堪えません。先生は御承知の方も多いかと存じますが当区御出身で格別縁故の深い方でございまして、

膨大な資料の調査収集や執筆編集に日夜御尽瘁を賜りました御労苦に対し、深く感謝を申し上げる次第でございます。区史は当区創設以前の郷土の今昔の史実とともに、市域編入後の区の変遷の姿などを詳さに記録されていて、後世に残して必ず役立つものと信じております。市域編入四〇周年記念事業は、終始一時のお祭り騒ぎで終ることなく、当区が将来一段と明るく住みよい町として発展隆盛をつづけますことを祈念して進めて参ったのでございまして、当初からの一連の行事が区のために、延いては大阪市のために寄与しているなれば、これに過ぎる喜びはございません。

最後に本四〇周年記念事業に対し御協力を賜りました会員ならびに役員各位の御芳名を永く後世に遺すため、巻末に登載させていただきましたことを御了承賜わるようお願い申し上げますとともに、区史編集にあたり各種の貴重な資料を御提供下さいました関係の皆様方に深甚の謝意を表しまして、まことに粗辞でその意を尽しませんが発刊の御挨拶といたします。

昭和四三年一〇月一日

西成区市域編入四〇周年記念事業委員会

会長 油野千次郎

目次

序

第一編 総説

第一章 西成区の誕生	一
第二章 西成区の地形	七
第三章 黎明時代	一〇
第四章 近世	一四
第五章 明治時代	二五
一 行政区画の変せん	二五
二 明治時代の当区の発展	三〇
1 明治前半期	三〇
2 明治後半期	三〇
第六章 大正時代	四六
一 大正期の発達	四六

1 大正前半期 四六

2 大正後半期 五六

二 市域拡張と西成区の成立 五六

第七章 昭和時代 六一

一 日華事変まで 六一

二 日華事変発生後 六四

三 第二次西成区の成立と終戦まで 七〇

四 終戦後 七四

五 西成事件の発生 八〇

六 区勢の発展 八五

第二編 各 説 九三

第一章 土木事業 九三

一 道 路 九三

二 河 川 一〇四

三 橋 梁 一〇七

第二章 農 業 一一〇

第三章 商 業 一二一

一 小売市場 一二三

二 商店会と商店街 一二六

三 卸売市場 一三四

四 金融機関その他 一三七

第四章 工 業 一四三

一 概 観 一四三

二 各種工業 一五〇

第五章 交 通 一七九

一 南海鉄道 一七九

二 市 電 一八九

三 市 バス 一九一

四 地 下 鉄 一九七

五 国鉄環状線 二〇二

第六章 教 育	二〇五
一 小 学 校	二〇五
二 新 制 中 学	二一五
三 府 立 高 校	二一八
四 幼 稚 園 と 各 種 学 校	二二〇
第七章 社会福祉と保健衛生	二二三
一 戦前の社会施設	二二三
二 西成区福祉事務所	二二九
三 社会福祉事業連絡助成機関	二三〇
四 現在の社会福祉施設	二三六
第八章 上 下 水 道	二五三
一 上水道事業	二五三
二 下水道事業	二五九
第九章 官 公 署	二六五
第一〇章 公園・住宅・娯楽機関	二八三
一 公 園	二八三
二 住 宅	二八七
三 映画館と劇場	二九六
第十一章 災 害	三〇一
一 台 風 禍	三〇一
二 戦 災	三一七
第十二章 宗 教	三二五
一 神 社	三二五
二 寺 院	三三五
三 その他の宗教	三四一
付 録	
一 参 考 統 計	三四七
二 西成区史年表(明治以降)	三七一
三 主なる参考書	三九九

四 西成区市域編入四〇周年記念事業のあらまし……………四〇一

五 あとがき……………四三四

題 字 大阪市長 中 馬 馨

見返し絵 生 田 花 朝 画 伯

天下茶屋是齋屋・千本松風景

第一編 総 説

第一章 西成区の誕生

第一次西成
区の成立

本区は大正一四年四月一日、大阪市の第二次市域拡張によって初めて成立した。すなわち当時大阪市は周囲部の発展から、周辺の東成・西成両郡の四四方町村を一举に併合し、それまで旧市が東・西・南・北の四区に分れていたのに対し、これを八区に増区し、同時に新たに編入した四四方町村の地域を、五区の行政区画にわけることとした。かくて生まれたのが西成区で、それまでの新編入五区の旧村名を示すと、つぎの通りであった。

区 名	編 入 町 村 名
西淀川区	西成郡 伝法町・鷺洲町・歌島村・千船町・稗島町・福村・川北村
東淀川区	西成郡 中津町・豊崎町・西中島町・豊里村・大道村・新庄村・中島村・北中島村・袖津町
東成区	東成郡 生野村・鶴橋町・中本町・神路村・小路村・城東村・榎木村・鯉江町・榎並町・城北村・古市村・清水村
住吉区	東成郡 天王寺村・平野郷町・喜連村・北百濟村・南百濟村・田辺町・依羅村・長尾村・住吉